

4班 ワークショップ内容

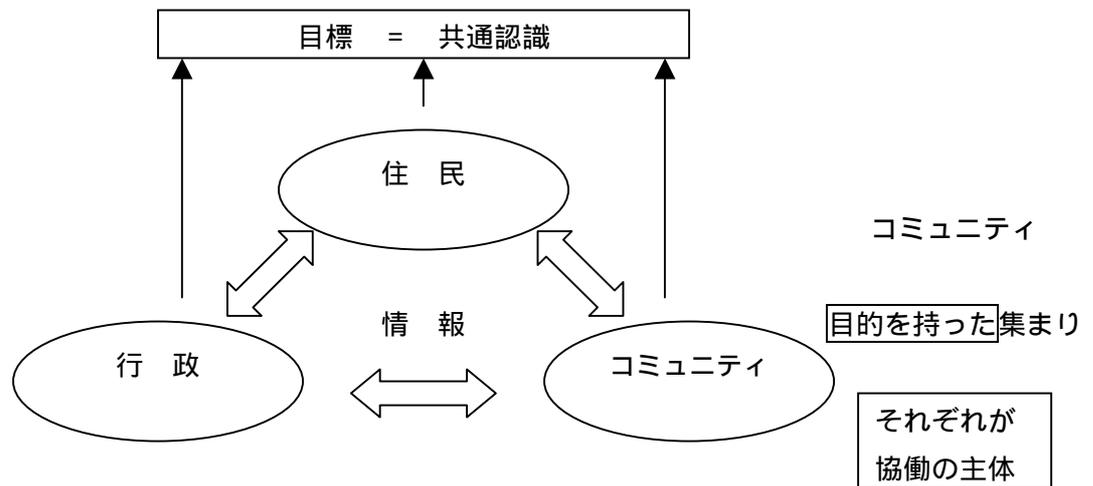
(1) 班内各意見の背景の確認

- ・「協働」、「市民参画」、「コミュニティ」のイメージについて意見交換をした。

「協働」について

ホワイトボード板書

- ・官（行政）と民（市民）のつながり
- ・互いを補い合う関係、役割分担 責任
役割を全うする
- ・行政主体（主力）だったものを平等に、信頼関係
- ・互いに良いところを活かす
- ・市民と行政だけではなく、市民と市民の協働も

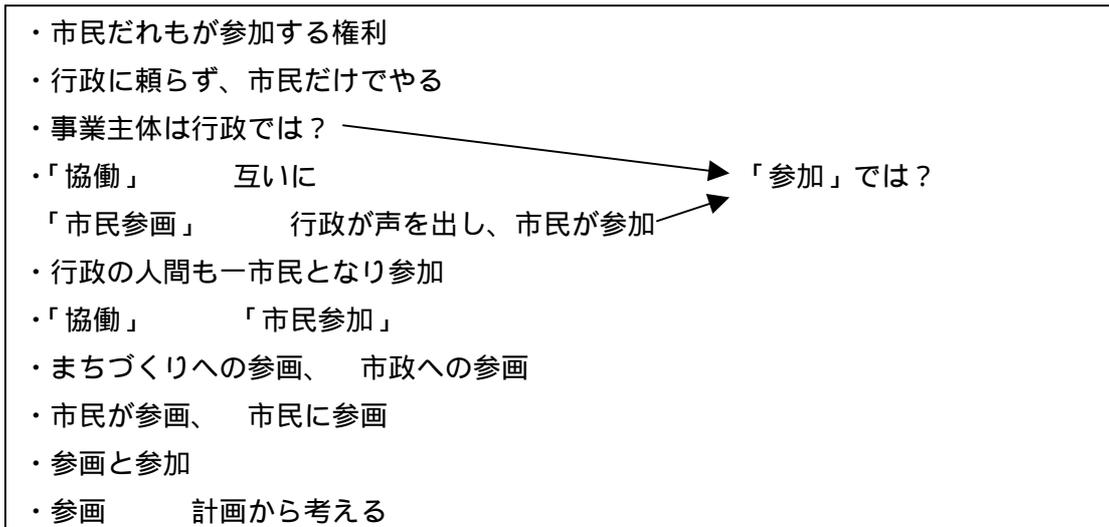


発表内容

- ・「協働」のイメージは、官と民が協力して活動するにあたり、お互いがない部分を補い、役割分担をしながら責任を全うしていく、ということである。
- ・「協働」は、一つの目的に向かって進んでいくという最低限の条件になると思われ、当然相互の信頼関係が大事ではないか。
- ・「協働」には、「住民」と「行政」と「コミュニティ」という関係ができるのではないか。
- ・「住民」、「行政」、「コミュニティ」はそれぞれ目的を持っており、「協働」の主体となり得るが、当然そこには目標や共通意識を持って活動していると思われる。
- ・「協働」について、「行政のみ」、「住民のみ」、「コミュニティのみ」という活動は考えられず、それらの間を取り持つのが「情報」ではないか。
- ・最終的には、目標に向かってそれぞれが責任を持って活動をしていく、というイメージである。

「市民参画」について

ホワイトボード板書



発表内容

- ・「市民参画」について、主体は誰なのか、「協働」とどこが違うのか、という点が大きなポイントとなったが、これについては考えがバラバラであった。
- ・「市民参画」のイメージは、
行政が主体となり、行政が声を出したところに市民が参加して、計画の段階から市民の声を反映させていく
行政に頼らずに市民が独自に進めていき、行政の人間も一市民として関わっていく
の2つがあった。
- ・計画段階から参加し、市民の声を反映させる、という意見や、「協働」を達成させるための手段として「市民参画」があるのではないか、という意見があった。
- ・計画段階からの参加では、当然そこに参加した市民の責任も大きくなり、責任の所在はどうなるのか、という話があった。
- ・責任の部分で「協働」との違いが出てくるのではないか、との意見もあったが、一方で、参加した人には皆責任がある、という意見もあった。

「コミュニティ」について

発表内容

- ・「コミュニティ」とは、「家族」や「共通の何かの切り口を持った小さな集まり」であり、それがしだいに大きくなって「団体」や「団体の長」が集まり、さらに大きな「団体」になっていく、というものではないか。
- ・イメージするのは、地域や町内会などの地縁団体的な地域コミュニティだけでなく、「ある目的を持った集まり」である、という統一的な認識であった。

(2) 班としてのカテゴリーの決定

- ・最終的な結論へは至らなかったが、現時点では前回挙げたとおりとする。

